聖書の祈りが私の祈りになる（旧約編）

第５章　ソロモンとイスラエル後期のリーダーたちの祈り①

ソロモン　知恵を求める謙遜な祈り　契約の更新

ソロモン

聖書全体の中で最も模範的な祈りのいくつかは、ダビデの息子で王位継承者のソロモン王によるものです。ダビデの祈りとは異なり、記録されているソロモンの祈りは数が非常に限られているのですが、しかし、記録されたものに対して逐一、与えられた答えが記録されてもいるのです。彼が祈っている最初の記事は、列王記第一に見られます(Ⅱ歴代 1:7-13 も参照)。

知恵を求める謙遜な祈り

> その夜、ギブオンで主は夢のうちにソロモンに現れた。神は仰せられた。「あなたに何を与えようか。願え。」ソロモンは言った。「あなたは、あなたのしもべ、私の父ダビデに大いなる恵みを施されました。それは、彼が誠実と正義と真心とをもって、あなたの御前を歩んだからです。あなたは、この大いなる恵みを彼のために取っておき、きょう、その王座に着く子を彼にお与えになりました。わが神、主よ。今、あなたは私の父ダビデに代わって、このしもべを王とされました。しかし、私は小さい子どもで、出入りするすべを知りません。そのうえ、しもべは、あなたの選んだあなたの民の中におります。しかも、彼らはあまりにも多くて、数えることも調べることもできないほど、おびただしい民です。善悪を判断してあなたの民をさばくために聞き分ける心をしもべに与えてください。さもなければ、だれに、このおびただしいあなたの民をさばくことができるでしょうか。」(I 列王記 3:5-9)

ここで特に興味深いのは、この若い王に対しての**「あなたに何を与えようか。願え」**という神のお言葉です。願うということは、私たちと神の双方にとって大切なことです。私たちにとってというのは、自分が神により頼んでいることを再認識させるからであり、神にとってというのは、神は何らかの形で、ご自分のお働きを、私たちが信仰を働かせることに連動させておられるからです。イエスはこう教えました。**「求めなさい。そうすれば与えられます」(マタイ 7:7)**。しかし、受け取ることは、求め方に左右されます。**「何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です」(I ヨハネ 5:14)。「願っても受けられないのは、自分の快楽のために使おうとして、悪い動機で願うからです」(ヤコブ 4:3)。**

願いを口にする前に、ソロモンはいくつか注目に価する点を認識しています。

1. 神は父ダビデに対して大いなる憐れみと優しさをお示しくださった(I 列王 3:6)。
2. 自分を父の地位に据えて王としてくださったのは神である(7 節)。

３．**神に選ばれた民は「あまりにも多くて、数えることも調べることもできないほど」(7-8 節)で、とても導くことができない。**

ソロモンは、自分の責任に圧倒されていたことでしょう。しかしながら、彼が(無敵の王ダビデの息子であるという)自らの出自を、王としての務めに十分な力とは考えなかったということは、賞賛に価します。有名で有能な親を持つ子どもたちは、親の跡をいろいろな形で引き継いでいくことがありますが、そのような際に、その息子、娘たちが学ぶべき教訓が、ここにはあるのです。

ソロモンの願いを見てみましょう(9 節)。神が関心を向けてくださるのは、人の謙遜な態度だけでなく、その**無私な願い**にもよるのです。ソロモンほどの人物でなければ、富や権力、名誉など、個人的利益をもたらしてくれる類のものを求めたことかもしれません。しかし、彼は違いました。彼の祈りは、ひたすらに自らの民の幸福を気づかうものでした。彼は人々を、自分の所有物ではなく神のものだと考えていました。そして、羊飼いのしもべの立場を取り、神のみこころを喜んで実行するとともに、神の民の利益のために働きたいという姿勢を見せたのです。彼が知恵を求めたのは、王国の諸事を、明確な判断によって裁き、公正さをもって仕切ることができるようになるためでした。そして、**「この願い事は主の御心にかなった」(10 節)**のです。神は、ソロモンの願いに肯定的な答えをお与えになるとともに、「富と誉れ」と長寿という、彼が願わなかったものまでも加えられたのです(11-14 節)。

契約の更新

主の神殿を 7 年かけて完成させた後、ソロモンは祭司たちに、主の契約の箱を神殿の内堂である至聖所に安置させました(I 列王 8:6)。祭司たちが内堂を後にすると、神殿は雲に満たされ、祭司たちが奉仕を続けられないほどになりました。そこでソロモンは、献堂の祈りを捧げました(I 列王 8:22-53)。これは、聖書に記録されている中でも最も長い祈りの一つとなっています。この祈りは全体を通して読むべきですが、ここでの論考のためには一部だけを紹介し、全体的な調子と内容を感じていただければと思います。

> ソロモンはイスラエルの全集団の前で、主の祭壇の前に立ち、両手を天に差し伸べて、言った。「イスラエルの神、主。上は天、下は地にも、あなたのような神はほかにありません。あなたは、心を尽くして御前に歩むあなたのしもべたちに対し、契約と愛とを守られる方です。…」「それにしても、神ははたして地の上に住まわれるでしょうか。実に、天も、天の天も、あなたをお入れすることはできません。まして、私の建てたこの宮など、なおさらのことです。けれども、あなたのしもべの祈りと願いに御顔を向けてください。私の神、主よ。あなたのしもべが、きょう、御前にささげる叫びと祈りを聞いてください。そして、この宮、すなわち、あなたが『わたしの名をそこに置く』と仰せられたこの所に、夜も昼も御目を開いていてくださって、あなたのしもべがこの所に向かってささげる祈りを聞いてください。あなたのしもべとあなたの民イスラエルが、この所に向かってささげる願いを聞いてください。あなたご自身が、あなたのお住まいになる所、天にいまして、これを聞いてください。聞いて、お赦しください。」
>
> 「ある人が隣人に罪を犯し、…あなたの祭壇の前に来て誓うとき、あなたご自身が天でこれを聞き、あなたのしもべたちにさばきを行って、悪者にはその生き方への報いとして、その頭上に悪を下し、正しい者にはその正しさにしたがって義を報いてください。」
>
> 「また、あなたの民イスラエルが、あなたに罪を犯したために敵に打ち負かされたとき、彼らがあなたのもとに立ち返り、御名をほめたたえ、この宮で、あなたに祈り願ったなら、あなたご自身が天でこれを聞き、あなたの民イスラエルの罪を赦し、あなたが彼らの先祖たちにお与えになった地に、彼らを帰

らせてください。」

「彼らがあなたに罪を犯したため、天が閉ざされて雨が降らない場合、彼らがこの所に向かって祈り、御名をほめたたえ、あなたの懲らしめによって彼らがその罪から立ち返るなら、あなたご自身が天でこれを聞き、あなたのしもべたち、あなたの民イスラエルの罪を赦し、彼らの歩むべき良い道を彼らに教え、…雨を降らせてください。」

「だれでも、あなたの民イスラエルがこの宮に向かって両手を差し伸べて祈るとき、…どのような祈り、願いも、あなたご自身が、あなたの御住まいの所である天で聞いて、赦し、またかなえてください。ひとりひとりに、そのすべての生き方にしたがって報いてください。あなたはその心を知っておられます。…」

「また、…外国人についても、…この宮に来て祈るとき、あなたご自身が、あなたの御住まいの所である天でこれを聞き、その外国人があなたに向かって願うことをすべてかなえてください。そうすれば、この地のすべての民が御名を知り、あなたの民イスラエルと同じように、あなたを恐れるようになり、私の建てたこの宮では、御名が呼び求められなくてはならないことを知るようになるでしょう。」

「彼らがあなたに対して罪を犯したため---罪を犯さない人間はひとりもいないのですから–––あなたが彼らに対して怒られ、彼らを敵に渡し、彼らが、速い、あるいは近い敵国に捕虜として捕らわれていった場合、彼らが捕らわれていった地で、みずから反省して悔い改め、捕らわれていった地で、あなたに願い、『私たちは罪を犯しました。悪を行って、処口ある者となりました』と言って、捕らわれていった敵国で、心を尽くし、精神を尽くして、あなたに立ち返り、:::あなたに祈るなら、あなたの御住まいの所である天で、彼らの祈りと願いを聞き、彼らの言い分を聞き入れ、あなたに対して罪を犯したあなたの民を赦し、:::彼らを捕らえていった者たちが、あわれみの心を起こし、彼らをあわれむようにしてください。」((I 列王記 8:22-23,27-36,38-39,41-43,46-50)

ソロモンの祈りには、簡単に三つの明確な区分があります。

1．　ダビデに対する言葉をおぼえてくださり、しもべソロモンの祈りに耳を傾けてくださるようにという全般的な願い(22-30 節)。

2．　七つの特別な願い(31-50 節)。これらは詩的な対句の形で表現されています。そして、「もしも」とそれを承(う)ける部分、「…の時には」とそれを承ける部分とがバランスの取れたものとなっています(対になった部分を見ると、それぞれが祈りの深い神学を示すものとなっており、祈りを真剣に学ぼうとする人ならば誰でも、それぞれの願いに思慮深く注意を寄せることで多くの実を得ることでしょう)。

   a. 人々が誓いを立でなければならなくなった時には、天から聞いて行動を起こしてください(31-32 節)。
   b. 人々が罪を告白する時には、天から聞いて罪を赦してください(33-34 節)。
   c. 人々が罪のゆえに苦しみを受け、罪から離れるなら、天から聞いて罪を赦してください(35-36 節)。
   d. 飢餓や疫病に際して人々が自らを深く省みる時には、彼らを各々に必要な行いや赦しに応じて取り扱ってください(37-40 節)。
   e. あなたの大いなる御名のゆえに異民族の人が来て、神殿に向かって祈る時には、求めていることを何でもしてあげてください(41-43 節)。
   f. 人々を戦いに派遣なさるとき、彼らが戦場で祈るならば、天から聞いて、その言い分を聞いてください(44-45 節)。
   g. 人々が罪を犯したことで彼らを捕囚にお送りになるとき、彼らが罪から立ち返って祈るならば、その祈りに耳を傾け、赦してください(46-51 節)。

3．神が切り離された(お選びになった)人々に注意深く耳を傾けてくださいという結論的な願い(51-53 節)。

ソロモンの祈りにおいて最も重要なことは、神による祝福と必要の満たしとは、**いただく側の行動と、神の要求と条件を満たすこととに関係している**ということに、彼が気づいていたという点にあります。このことを忘れると、祈りは空しいものとなるのです。

ソロモンの祈りの姿勢と体の動きも、重要なものとなっています。彼は**「両手を天に差し伸べて」(22節)**、**「それまで、ひざまずいて…いた主の祭壇の前から立ち上がり」(54節)**とあります。天に差し伸べていた両手は、彼が神の祝福と助けをいただく備えができていることを示しています。謙遜にひざまずくことにより(彼は王であり、主の御前に座ることもできたのですが(Ⅱサムエル 7:18 を参照))、彼は、天の王としての神の主権と、自分自身に価値が無いこと、自分が神に完全により頼む者であることを認識していたのでした。

神の遍在性を認識している 27 節は、ソロモンが、神の偉大さと無限さという、聞かれる祈りにとって非常に重要な要素を認識していることを示すものとなっています。私たちの人間的な限界から、他に並ぶもの無き神、まさに無限にしてかつ永遠の神、地上の建物はおろか最高の天にすらお収めすることのできない神、時間の制約のない神へと移っていく祈りは、なんという澄みきった喜びに満ちていることでしょうか。神は無限の時間、終わりなき年月の中に生きておられるのです。私たちの神は、なんと偉大な神なのでしょうか。

質問

1. 神はソロモンに「あなたに何を与えようか。願え。」と言われました。願うということは、私たちと神と両方にとってどのような意味で大切ですか？

2. ソロモンは神に知恵を求めました。彼はどんなことを思い、考えて、知恵を求めましたか？　神はなぜソロモンが願わなかったものまで与えると約束されたのですか？　あなたは、まわりの人のために自分がどうなりたいと望んでいますか？

3. ソロモンは父ダビデと神との契約に基づいて祈りました。みことばの約束に基づいて祈ることは大切です。あなたにも、みことばを読み、励まされて祈った体験がありますか。

4. ソロモンは 7 つの特別な願いを祈りました。そこには神による祝福と必要の満たしを受け取るために、人がとるべき態度が記されています。　神が願いをかなえて下さるために、あなたはどんな態度を取る必要があると思いますか？

5. ソロモンは祈る時に、神の遍在性と偉大さと無限さを認識していました。あなたは祈る時に、神をどのような方と認めて祈っていますか？それは神の偉大さにふさわしい理解だと思いますか？

6. 今日読んだ箇所から、あなたは祈りについてどんなことを教えられましたか？　どんなことを実践したいと思いますか？

祈り

天の父なる神さま。どのようなときも、みことばの約束を信じて、自分の求めることをまっすぐあなたに申し上げることができますように。私がいつも、まわりの人の益のために自分がどう変わりたいかを考え、あなたの祝福と助けを期待できますように。